

ページ	行	誤	正
10左	下19	良成	良介
14左	図-2.3	成長阻害水分	生長阻害水分
18左	4~5	採集	採取
18左	7	採集	採取
21右	図-2.11	(a) 平型ロッド型	(a) 平行ロッド型
21右	式 (2.44) 上3	式 (2.44) 式 (2.45)	式 (2.44)、式 (2.45)
21右	下10-11	プロフィール	プロファイル
22左	7	次式 (2.46)	式 (2.46)
23右	3	図中の直線は・・・	式 (2.49) は直線ではなく、3次曲線である
23右	式 (2.50)	$(T-25)^3$	$(T-25)^3$
25左	2	次式 (2.53)	式 (2.53)
25左	7~8	「比誘電率は・・・定義される。」	削除
26左	式 (2.57) の下 2	「要素内に生じる涌出し流量」	「要素内に生じる単位体積当たりの涌出し流量」
26左	式 (2.59) の下 2	次式 (2.60)	式 (2.60)
26左	下3	$S_r \partial n / \partial h_p = \beta$	$S_r \partial n / \partial h_p = \beta S_s$
26右	式 (2.61) 右辺	$\rho_w (C + \beta S_s)$	$\rho_w (C + \beta S_s) \frac{\partial h_p}{a}$
26右	式 (2.62) 左辺	$\partial \theta / \partial h_p$	$\partial h_p / \partial t$
26右	式 (2.63)	$\partial \theta / \partial h_p$	$\partial h_p / \partial t$
26右	式 (2.64)	$\partial \theta / \partial h_p$	$\partial h_p / \partial t$
26右	式 (2.64) の下 1	Kulte	Klute
26右	式 (2.64) の下 8	Kulte	Klute
27左	下8	含水比	体積含水率
27右	下7	・・・変化する点が異なる。	・・・変化する。
28左	式 (2.72) の上 4	孔隙	間隙
28右	式2.73) 下6	ハーゲンポアジュール	ハーゲンポアズイユ
29右	4	比例定数	比例係数
29右	13	サクション	ポテンシャル
29右	図-2.27	沖積土	粘性土
30右	式 (2.76) の下 6	・・・異なる形状となる。	・・・その変化形状も異なる。
30右	式 (2.76) の下 9	に与える土質	削除
30左	図-2.30	右縦軸：不飽和透水係数 k_{wu}	右縦軸：不飽和透水係数 $\log(k_{wu})$
31左	図-2.33の図タイトル	水蒸気と水の水分拡散係数	水蒸気と水の水分拡散係数 ⁶³⁾
31左	12	・・・から無限大になり	・・・から水分拡散係数は無限大になり
32左	式 (2.87) の下 10	k_w	k_{ws}

32右	図-2.35の横軸の数字	左から順に 10^{-1} , 10^{-1} , 10^{-1}	左から順に 10^{-3} , 10^{-2} , 10^{-1}
32右	下12~15	式(2.79) ※2箇所	式(2.89)
33左	図-2.36	上方の $q_a q_a = q_{a0} q_{a0} = \text{const}$,	この表記を削除
33左	式(2.95)の右辺	q_{a0}	v_{a0}
33右	式(2.100)の左辺	ρ_{a0}	q_{a0}
33右	式(2.102)の上2	式(2.84)	式(2.94)
34左	下5	$\beta \rho_a v_a$ は乱流項	$\beta \rho_a v_a^2$ は乱流項
34右	図-2.39	上から順に 10^1 , 10^2 , 10^3 , 10^4 , 10^5	上から順に 10^1 , 10^0 , 10^{-1} , 10^{-2} , 10^{-3}
58右	式(2.195)	r^2	r_0^2
59右	表-2.11	酸度	湿度
66左	下5	応する水分量が静的な状態に比べて大きくなることや、	応する水分量が静的な状態に比べて大きくなることや、
86左	図-3.2	図中の n_0 , S_{r0} , H の説明を記入	n_0 :初期間隙率 S_{r0} :初期飽和度 H : Henryの溶解率(常温では約0.02)
86左	下1-2	初期サクシオンはかなり変動していたが、	なお、測定された初期サクシオンの値はばらついていた ²⁾ が
86	図-3.5	縦軸タイトル	サクシオン($u_a - u_w$)の後に(kPa)を続ける。(2行にしない)
87左	下9-12	なお、Bishop・・・得られたものである。	「なお、Bishopの有効応力による応力経路は、飽和供試体による破壊線と不飽和供試体による破壊線を等しいとして得られた図-3.8に示す χ -飽和度関係1)を、せん断開始時より供試体飽和度に適用して χ を求めることにより描かれたものである。」と修正する
87左	下1-4	なお、この試験条件は・・・もあるため、	なお、この試験条件については、不飽和土の挙動として未解明な部分もあるため、
90左	上から20行目	なお、Bishop and Henkel ⁴⁾ 型の試験装置	なお、Bishop and Henkel ⁴⁾ 型の試験装置
90右	下10	・・・対象とした・・・	・・・対象とし、・・・
90右	下8-9	・・・行われている。(5.6.4参照)	・・・行われている(5.6.2参照)。
91左	28	行われている ²¹⁾ 。	行われている ²⁰⁾ 。
91左	下17	試験である。	試験である ²¹⁾ 。
92左	11	・・・作面している・・・	・・・作用している・・・
93左	図-3.18図タイトル	脱水時の体積ひずみと排水量	脱水時の体積ひずみと排水量 ⁵²⁾
93左	下9	圧密(圧縮)	圧密
93右	下から20行目	で求め、式(3.2)から強度増加パラメーター・・・	で求め、式(3.2)から強度増加パラメーター・・・
93右	(3.2bis)の上	せん断強度式	破壊条件式
94左	下から9行目	図-3.21は図-3.19の	図-3.21は図-3.19に示した結果についての
94左	下2	排水に転じる	排水挙動を示す
95左	9	「・・・高い供試体では・・・」	「・・・高い $S_r=81.2\%$ の供試体では・・・」
95右	下12	(1) 不飽和土の破壊規準	削除
96	図-3.25、26、27	凡例●飽和度	凡例●飽和土
96	図-3.25、26、27	凡例 S_r	凡例 s

96左	上2	$(p+p_s, q)$	$(p_{net}+p_s, q)$
96左	図-3.25の下7	「・・・見掛けの強度・・・」	「 p_{net} に対する見掛けの強度」
96右	式(3.5)	$q=M(p+p_s)$	$q=M(p_{net}+p_s)$
96右	式(3.5)の下2	p : 平均基底応力	p_{net} : 平均基底応力
96右	下7-4	少なくとも・・・考え方では	図-3.25に示すようにサクシオン一定試験結果の軸切片をサクシオンの効果とする考え方では、
97左	13	・・・せん断挙動が異なる挙動が現れる。	・・・せん断挙動が異なることがある。
97右	右段の最後		右段の最後の文章に続けて改行せずに、以下の文章を追加 「なお、図-3.31はヒステリシスによるせん断強度へのサクシオン寄与の変化を示したものである。」
98	左6&11	せん断強度式	破壊条件式
98右	式(3.9)	$\sigma_{net} \phi_{net}$	$\sigma_{net} \tan \phi_{net}$
98右	図-3.32の下1	「・・・段階・・・」	「・・・現段階・・・」
99左	下7	・・・5.6.4を参照されたい。	・・・5.6.2を参照されたい。
101左	上12	・・・ $(\sigma-u_a)$ ・・・	σ_{net}
101左	図-3.38	図中にある 3箇所 σ_{net}	σ_{net}
101右	図-3.39	横軸の σ_{net}^*	σ_{net}^*
101右	図-3.39	図タイトル	図タイトルの下に「(図中も σ_{net}^* は $\sigma_{net}+p_s$ を表す)」を加える
102左	図-3.42、43	Caption:制御温度	制御湿度
103	図-3.47、49	縦軸タイトル	せん断強度 τ (kPa)
104	図3-3.52 (b)	縦軸タイトル	体積ひずみ ϵ_v (%)
105	図3-3.56 (b)	縦軸タイトル	体積ひずみ ϵ_v (%)
111右	下3	pp. 265	p. 265
116右	図-4.2	凡例 N_0 : 外力による粒子間せん断力	T : 外力による粒子間せん断力
169左	図-5.58	成長阻害成分	生長阻害成分
169右	図-5.59中の表記	成長有効水分量	生長有効水分量
169右	図-5.59タイトル	成長有効水分量	生長有効水分量
197左	下6	加圧型試験装置で、供試体を挟む上下面のフィルターにサクシオンを負荷している。	加圧型試験装置で、供試体を入れた有孔鋼製リングを通して空気圧を制御している。